オリンピックスポーツ文化研究
2022. 6　No. 7　141 ― 145

東京 2020 オリンピアン・パラリンピアンの記録
―入江聖奈選手―

福　井　　元（スポーツ文化学部）

【経歴】

2007 年～ 2013 年	米子市立義方小学校
2013 年～ 2016 年	米子市立後藤ヶ丘中学校
2016 年～ 2019 年	鳥取県立米子西高等学校
2019 年～	日本体育大学体育学部体育学科

【競技歴】

2008 年	シュガーナックルジムに入門
2014 年	第 1 回全日本 UJ ボクシング王座決定戦女子中学生の部 52kg 級　優勝
2016 年	第 16 回全日本女子ボクシング選手権大会女子ジュニアの部 フライ級　優勝
2017 年	世界女子ユース選手権　バンタム級　第 3 位
2017 年	第 17 回全日本女子ボクシング選手権大会女子シニアの部 フェザー級　優勝
2018 年	ASBC アジア・ユース選手権　フェザー級　第 3 位
2018 年	世界ユース選手権　フェザー級　第 3 位
2019 年	AIBA 世界女子ボクシング選手権大会　フェザー級　第 5 位
2019 年	東京 2020 ボクシング競技　国内最終予選ボックスオフ フェザー級　東京 2020 アジア・オセアニア大陸予選出場権獲得
2019 年	東京 2020 アジア・オセアニア大陸予選　フェザー級　準優勝
2021 年	東京 2020 オリンピック　フェザー級　優勝

45 勝（26RSC）9 敗

本稿は，「研究プロジェクト：東京 2020 オリンピアン・パラリンピアンの記録」の一環として実施した，メダリストへのインタビューをもとに構成されている．

本インタビューは，2022 年 1 月 12 日（水）に，日本体育大学　東京・世田谷キャンパスにて入江聖奈氏にお話を伺ったものである．

1．競技との出会い

入江氏は鳥取県の米子市で生まれた．小学校 2 年生の時に母親が読んでいた小山ゆう氏の“がんばれ元気”というボクシングを題材にした漫画を読んだことがきっかけでボクシングに興味を持つ．母親が読んでおり家の本棚にたまたま並んでいた本であったが，プロボクサーの父親を亡くした堀口元気という主人公の少年が，世界王者を目

指しボクシングに励むというストーリーに心を打たれる．またボクシングとは，ただ相手を殴るのではなく，自分自身に向き合いかつ相手を殴らないといけないという，ボクシングの奥深さにも惹かれた．この“がんばれ元気”を読んだその日から，子ども部屋でパンチらしきものを繰り出し，1人自分の部屋でボクシングごっこをはじめていた．入江氏は子どもながらに女の子がボクシングをするということに，後ろめたさを感じたようで，自分の部屋で隠れながらボクシングらしきことを続けていたようである．この隠れて行っていたはずのボクシングを両親は知っていたようで，母親は女の子だからと心配し反対したものの，父親に連れられ，米子市唯一のボクシングジムである“シュガーナックルボクシングジム”にいつの間にか入会していた．ジムには後の東京2020大会の日本代表コーチとなる伊田武志会長がおり，楽しみながらボクシングを教えて頂いた．今でも得意としているジャブという種類のパンチだが，ストレートと共にこのときからひたすら練習していたことを記憶している．

その後も楽しみながらボクシングを続け，入門から2年が経ち小学校4年生の時に初めて試合に臨むことになる．この時は1つ年上の女子選手と対戦したが，結果は引き分けで，試合後結果に号泣したのを覚えている．その後は無敗で中学生の時はほとんどの試合はKOで勝ったそうである．最初の試合の号泣から自分の負けん気に火が着いたんだと語っていた．

小学校6年生の夏休みが終わった9月に，入江氏の今後を左右する大きな出来事があった．それはオリンピック大会が東京で開催されることが決まったことである．しかもあと7年後，開催日と誕生日の関係で19歳か20歳の年だ．この時から東京オリンピック代表に選ばれて金メダルを取ることが目標になったそうである．

2．日体大での思い出

小学校でボクシングを始めてから高校卒業までの10年間，米子市のシュガーナックルジムでボクシングの練習を続けてきた．しかし，大学に進学してしまうと米子市を離れることになってしまう．練習環境が変わるのがプラスになるのか，マイナスに作用するか色々と迷ったが，ボクシング場がきれいだったことと，小学校からこれまで周りに女子のボクシング選手が少なく，日体大のボクシング部には女子部員が多くおり，相談がしやすいのではないかと考えたことが決め手となり，様々な競技で数多くのオリンピック選手を輩出してきた日体大に進学を決めた．

実際に入学してから，当時の女子のキャプテンは自らきつい練習にも進んで取り組んでおり，アドバイスも気軽にしてくれるなどすぐに溶け込むことができた．鳥取県から一緒に練習してきた木下鈴花氏をはじめ，同級生も日本のトップクラスの選手が集まったことに加え，2年生までは大学の和泉寮に入っていたので様々な競技で日本のトップクラスに位置する選手から，様々な考え方，トレーニングや練習及び気分転換の方法など，これまではなかなか聞くことができなかったことを，気軽に話せる友達が周りに多くいたのもプラスになったという．

大学生活では，日体大では色々なスポーツの種目を授業で経験した．実はあまり運動が得意でないということもあり，授業で行う種目が得意なボクシング部員にコツを教えてもらっていることもあった．特に体操のテストの前はボクシングの練習以上に，体操を練習していた気がする．また，2年生の時に海浜実習という実習があった．本来ならば千葉県の岩井海岸で大遠泳や遠泳を行う実習だが，コロナ禍ということで健志台キャンパスのプールをぐるぐる周回するという方法で行われた．出身の米子市は海があり泳ぎは得意なはずだったが，長い距離を泳いだため少しおぼれかけたりもした．プールで長い距離を泳ぐということ

は経験が無かったので，きっと数年後に友達と話す時には笑い話になっていると思うと語っていた．

ボクシングに関しては，大学に入学し半年が過ぎた 2019 年 10 月，ロシアで世界選手権大会が開催され，その大会に日本代表として出場することになった．初戦，2 回戦と順当に勝ち進み，準々決勝の相手はフィリピンのネスティ・ペテシオ選手だった．ペテシオ選手との試合は判定までもつれ込んだが 1-4 で敗戦し，オリンピックの前哨戦は第 5 位という結果に終わった．しかし大差で負けたわけではなく，世界一というのが全く手の届かないものではないという自信を持つことができた．

3．オリンピックへの道のり

オリンピック前年の世界大会は，前に書いた通り第 5 位という結果だったが，東京 2020 大会に出場する為には，オリンピックの日本代表に選ばれる必要がある．実は前年の世界大会に出場したからといって，この時はまだオリンピックへの出場は決まっていなかった．オリンピックの代表選手となるためには，前年の世界大会の代表である入江氏と，2019 年の 12 月に開催された全日本選手権の優勝者（晝田瑞希選手：自衛隊体育学校）が 1 戦限りの試合を行い，その勝者が東京 2020 大会のアジア・オセアニア予選に出場することができるというものだった．そして運命がかかった 2019 年の 12 月 8 日，入江氏も必死だったが，晝田選手も必死の形相だったそうである．3 ラウンドを行い，力は拮抗しており，やはり結果は判定に持ち込まれた．結果は 3-2 という本当に僅差だが勝つことができ，オリンピックで金メダルを取るという夢を繋げることができた．

さあ，次は最後，アジア・オセアニア予選だと気持ちを向けて練習に取り組むことになるが，ご存知の通り丁度この時期に COVID-19 の感染が世界的に広がり 2020 年の 2 月に中国で予定されていた，アジア･オセアニア予選が中止になった．一旦気持ちが切れかかったが，1 ヶ月後にヨルダンでこの予選が開催されることになったので，そこに再度照準を合わせることになった．この予選でベスト 4 に入るとオリンピックに出場できることになっていたので，まずはそこを目指しての戦いになった．大会に入ると集中することができ，1 戦 1 戦順調に戦っていくことができた．いよいよ準々決勝である．この試合に勝つとオリンピック代表に内定する．対戦相手は昨年の世界大会で敗れたネスティ・ペテシオ選手であった．今度は相手のパンチに怯まずに，勇気を振り絞って戦うことができ，前回とは逆で 4-1 の判定勝ちという結果であった．同じく東京 2020 大会の代表であった並木月海選手の試合の順番が後だったということもあり，日本の女子ボクシング選手では史上初の代表選手に内定することになった．

4．オリンピックでのメダル獲得

COVID-19 の影響により 1 年遅れての開催となったが，オリンピックの開催に否定的な世論もあり，頭を悩ませることもあったが，大学のボクシング部の同期達の支えにより，1 年間を成長する時間と捉えモチベーションを保つことができた．そして小学生の頃からの夢でもあるオリンピックがいよいよ開幕した．選手村に入村してからは，練習，体のケア，食事，息抜きのゲームと普段通りの生活を送れていた．

試合に関しては，準決勝からは入場曲を自分で選ぶことができるので，以降は毎試合入場曲である XJAPAN の“紅”が流れ，2020 年のアジア・オセアニア予選の準決勝のときに大学の浅村雅則監督に受けた「笑顔でね」というアドバイスに従い満面の笑顔で登場する．そしてリングにあがる直前に，セコンドから背中にバンッと気合を注入されることをルーティンにリングに上がる．

試合に関しては，初戦から心地よく緊張したものの，1 回戦のエルサルバドルのヤミレス・ソロ

ルザノ選手，2 回戦のトルコのフルド・ハリミエプムラヒ選手を共に 5-0 の判定で圧倒し勝ち進んでいく．

そして一番緊張したのは，準々決勝であったようだ．この試合に勝てばメダルが確定するということで，これまで味わったことのない緊張感に体が支配されたという．対戦相手はルーマニアのマリアクラウディア・ネキツァ選手である．強打が持ち味の選手であったが，左ジャブ，右ストレートを打ち込み，3-2 の判定で下し，銅メダル以上を確定させた．

銅メダル以上を確定させたことで，随分とプレッシャーが減ったようである．次の準決勝はイギリスのカリス･アーティングストール選手だが，頭一つ分大きな選手である．1 ラウンドから得意のジャブで優勢，2 ラウンド目は落とした．勝負の 3 ラウンド目は激しい打ち合いになるが，5 人のジャッジのうち 3 人が入江氏を優勢とみなし，3-2 で勝利することができた．

いよいよ決勝であるが，対戦相手はこれまでもよく対戦しているネスティ･ペテシオ選手である．これまで 3 度の対戦があり，大学入学後すぐの ASBC アジアエリート男女ボクシング大会（2019 年 4 月）で勝利，その半年後の AIBA 世界女子ボクシング選手権大会（2019 年 10 月）で敗戦，そしてオリンピックのアジア・オセアニア予選での勝利と，ここまで 2 勝 1 敗であった．

普段の間合いよりも距離を保ちながら，左ジャブを主軸に右ストレートをヒットさせた．アマチュアボクシングは 3 ラウンドを戦うが，2 ラウンドを終えてジャッジの採点は 1 人が入江氏で，残りの 4 人は同点であった．最終ラウンドはいわゆる“ゾーン”に入った．アドレナリンが出すぎて，スタミナが尽きず疲れないという不思議な感覚のもと戦うことができた．これまでも，相手からどんなパンチがくるのかが，全部わかるというような“ゾーン”の経験はあったが，それが技術系の“ゾーン”とするならば，今回はフィジカル系の“ゾーン”であったと感じている．そのような状態のもと，特に残り 30 秒からワンツーやジャブを繰り出し続け攻め切ることができた．そして判定はというと，実はその瞬間の記憶は無いのだが，5-0 で勝利することができた．後から映像を見るとジャンプをし，喜んではいるがその時の記憶も無い．その後表彰台に上り金メダルを首に掛け“君が代”を聞いているときも，夢のように感じたようで，何度も頬をつねっていた．ようやく小学生からの自身の夢を叶えるとともに，2012 年に女子ボクシングがオリンピックに採用されて以降，日本勢としての初めての金メダルの獲得となった事に加え，出身の鳥取県勢としても初の金メダリストとなった．

5．今後の目標

オリンピックが終わった後，11 月に行われる全日本選手権に向けて練習を再開した．金メダルを取ったということで，メディアにも取り上げて頂き金メダリストとして，恥ずかしい試合はできないという思いで試合に臨んだ．決勝は大学の同期である松持亜実選手との対戦となったが，普段から仲良くしている同期との対決ということで，緊張し睡眠不足であったが，優勝を果たすことができた．

今のところボクシングは大学で一区切りつける予定なので，1 月のウズベキスタンで開催予定の U-22 アジア選手権大会，5 月の女子大学トーナメント，9 月の中国のアジア大会，11 月の全日本選手権と，個人団体の全てで優勝し，有終の美を飾りたいと考えている．実は台湾の林郁婷選手にアジア予選で負けているので，このまま終わるわけにはいかないとも秘かに考えている．また現役中は，まだまだマイナースポーツである女子ボクシングの普及に繋がるような活動にも参加していきたい．

現在大学 3 年生ということで，ボクシングが終わった時にも何かが残るような人間となる為，自分を高めていける社会人になりたいので，大学で

の勉強や TOEIC の勉強，就職活動も並行して頑張っていきたい．

６．日体大生へ一言

まだ自身が大学３年生ということで恐縮しながらも，以下のように力強く語ってくれた．オリンピックの金メダルを取れたことで，努力の方向性を間違わなければ，夢は叶うということがわかった．陸上競技を例えにすると，短距離の選手がフルマラソンの練習をしたからといって，タイムが縮まるわけでは無い．私のような運動が苦手な人でも，努力を諦めなければ何か掴むことができる．才能がどうかとかで諦めるのではなく，しっかり考えて努力を続ければ，夢は叶うという事を日体大の学生に伝えたい．







（受理日：2022 年 1 月 17 日）